

いじめの経験割合、および被害者の 属性の比較

眞田 英毅 (teruki.sanada.s8@dc.tohoku.ac.jp)

東北大学大学院 文学研究科 総合人間学専攻
行動科学専攻分野 博士課程2年

本研究の目的

- ・ 学校におけるいじめの経験割合および被害者の特性について、2時点の社会調査データを用いて比較・検討すること
- ・ 学校におけるいじめと出身階層との関連についての基礎的分析を行う

研究の意義と背景

● ここ数年のいじめの認知件数は横ばい(U字)

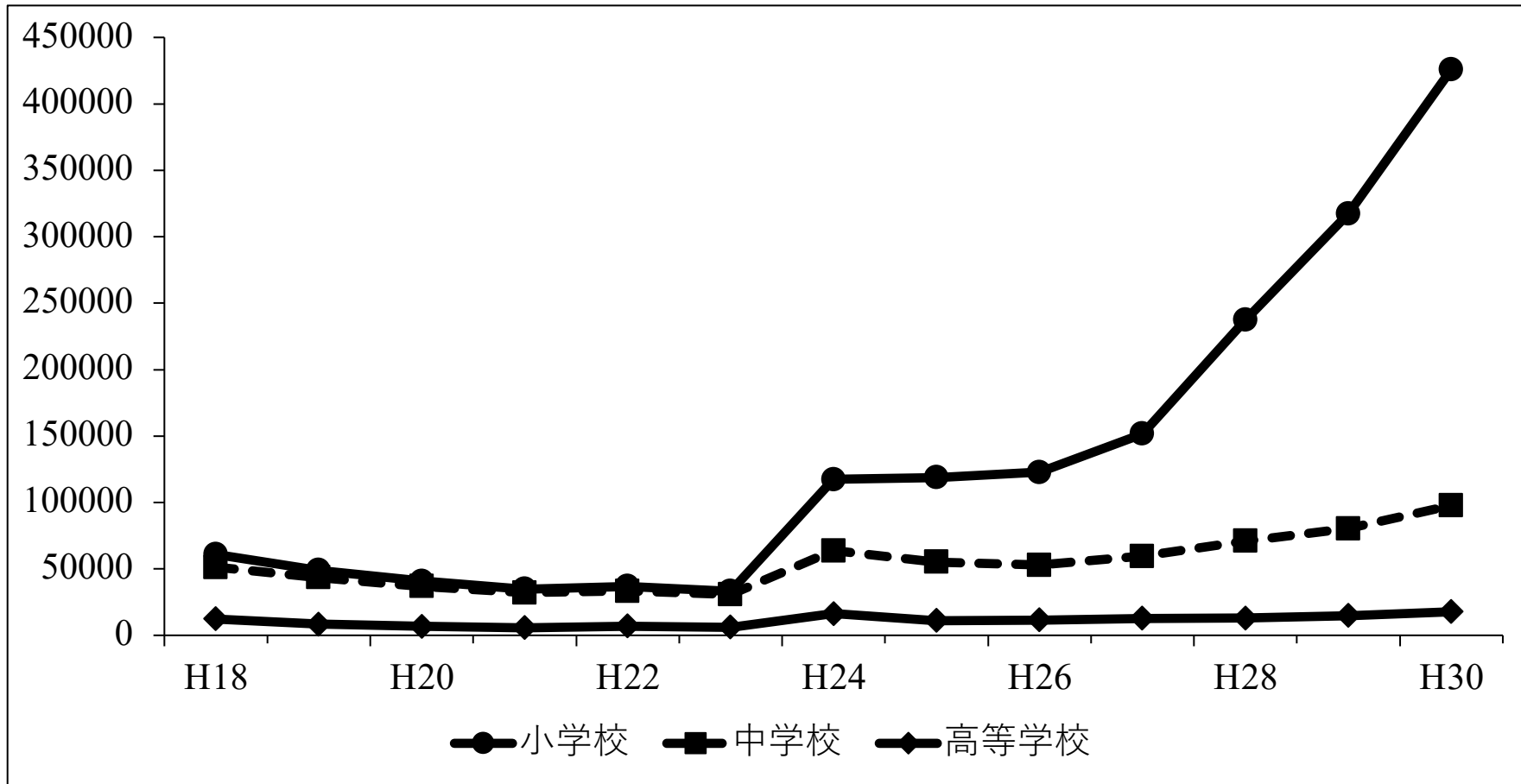


図1 いじめの認知件数(出典：文部科学省 2019)

研究の意義と背景

- いじめの研究分野は多岐に及ぶ

教育心理学, 発達心理学, 犯罪心理学...
教育社会学, 子ども学, ...

- いじめを学校での出来事と捉える(中村 2018)

社会学的観点から考えて, 学校における特定の負の出来事(いじめ, 不登校, etc)が出身階層に起因するものであれば, その関連を止める必要性

→本研究では学校におけるいじめと出身階層との関連を, 2時点のデータより確認する

先行研究

- Tippet & Wolke(2014)
 - ー海外文献のメタ分析
 - ー社会経済的地位といじめ加害，被害ともに微弱ながら関連が認められる
(被害経験は低階層と正の相関)
- 中村(2018: 40)
 - ーESSMを用いた分析
 - ー出身階層といじめ被害に関して，影響は強くはないものの観察される
 - ー恵まれない層でのいじめ経験率がやや高い

先行研究

- Ishida & Miwa (2012)
 - ーTIMSS2003データを用いて分析
 - ー学校環境などは効果は与えていない
 - 男性は女性よりいじめられやすい
 - 15歳時の本の冊数が多いほどいじめられやすい
- 須藤 (2014)
 - ーTIMSS2011データを用いた分析
 - ーいじめと学力についての関連を検討
 - 学力の低い学生の方がいじめをやや受けやすい
 - 学校の学力水準といじめには明確な関連はない

データ

データ

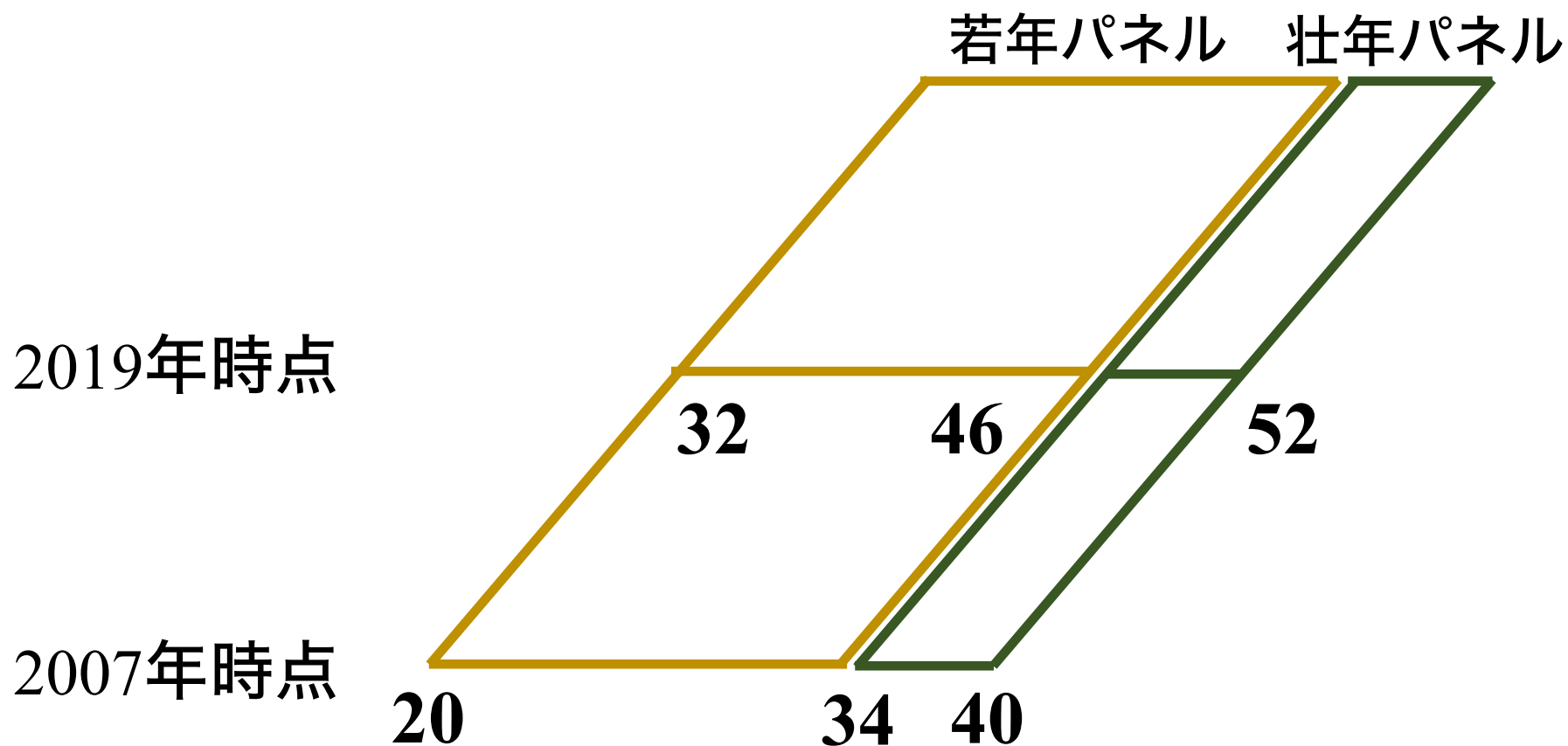
「働き方とライフスタイルの変化に関する
パネル調査」 (JLPS)

- 2007年に実施された若年パネル調査
(JLPS-Y)
- 2019年に実施されたリフレッシュ調査
(JLPS-R)

JLPS-Rは、JLPS-Yが12年たち加齢したこと
に伴う若年層サンプルの補完 (仲・三輪 2020)

データ

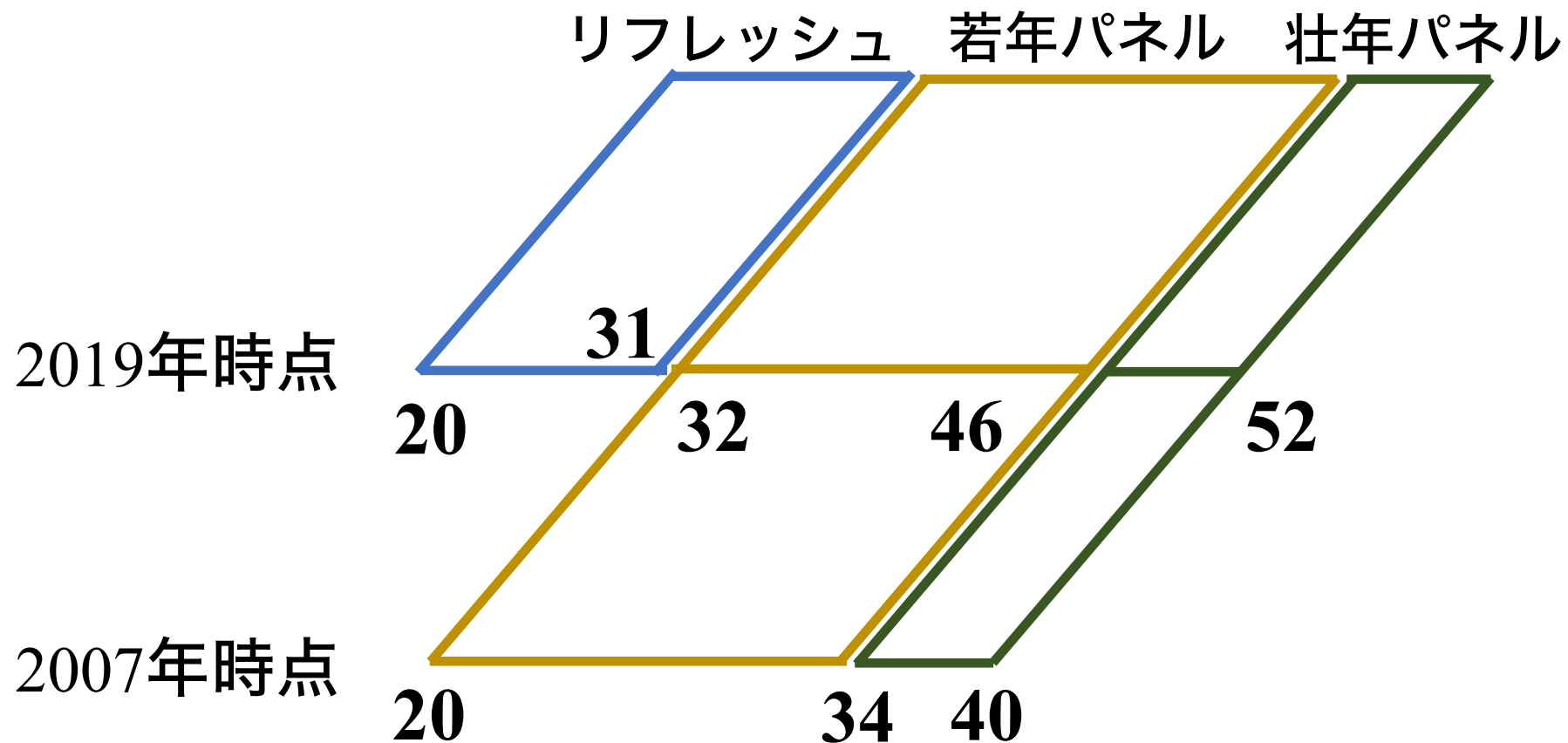
データ



池田（2020）より筆者作成

データ

データ



池田（2020）より筆者作成

データ

データ

- ・ 2007年に実施された若年パネル調査
(JLPS-Y)
- ・ 2019年に実施されたリフレッシュ調査
(JLPS-R)

JLPS-Rは、2007年のJLPS-Yとほぼ同様の調査設計
→ コーホート間の比較が可能

⇒ 本研究ではいじめの経験割合および被害者像に
ついて、コーホート間で比較を行う

記述統計

表1 性別といじめ経験割合の比較

パネル調査			リフレッシュ調査			
	いじめ経験あり	いじめ経験なし	合計	いじめ経験あり	いじめ経験なし	合計
男性	187	921	1108	172	549	721
	16.88%	83.12%	100.00%	23.86%	76.14%	100.00%
女性	315	842	1157	261	615	876
	27.23%	72.77%	100.00%	29.79%	70.21%	100.00%
合計	502	1763	2265	433	1164	1597
	22.16%	77.84%	100.00%	27.11%	72.89%	100.00%

注) このスライドから先の記述統計に関しては、情報をなるべく落とさず傾向を把握することを目的とするため全サンプルを使用

記述統計

表2 いじめ経験割合と親学歴との関連

パネル調査				リフレッシュ調査			
	いじめ経験あり	いじめ経験なし	合計	いじめ経験あり	いじめ経験なし	合計	
大学院	14	40	54	8	24	32	
	25.93%	74.07%	100.00%	25.00%	75.00%	100.00%	
大学	164	534	698	162	377	539	
	23.50%	76.50%	100.00%	30.06%	69.94%	100.00%	
短大・高専	32	116	148	39	94	133	
	21.62%	78.38%	100.00%	29.32%	70.68%	100.00%	
専門学校	53	151	204	45	127	172	
	25.98%	74.02%	100.00%	26.16%	73.84%	100.00%	
高等学校	167	650	817	141	403	544	
	20.44%	79.56%	100.00%	25.92%	74.08%	100.00%	
中学校	31	72	103	3	13	16	
	30.10%	69.90%	100.00%	18.75%	81.25%	100.00%	
合計	461	1563	2024	398	1038	1436	
	22.78%	77.22%	100.00%	27.72%	72.28%	100.00%	

記述統計

表3 いじめ経験割合と親職業との関連

	パネル調査			リフレッシュ調査		
	いじめ経験あり	いじめ経験なし	合計	いじめ経験あり	いじめ経験なし	合計
専門職・技術職	105	333	438	113	286	399
	23.97%	76.03%	100.00%	28.32%	71.68%	100.00%
管理職	42	154	196	37	81	118
	21.43%	78.57%	100.00%	31.36%	68.64%	100.00%
事務職	93	354	447	80	258	338
	20.81%	79.19%	100.00%	23.67%	76.33%	100.00%
販売職	64	271	335	63	138	201
	19.10%	80.90%	100.00%	31.34%	68.66%	100.00%
サービス職	42	145	187	46	115	161
	22.46%	77.54%	100.00%	28.57%	71.43%	100.00%
生産現場職・技能職	107	318	425	46	144	190
	25.18%	74.82%	100.00%	24.21%	75.79%	100.00%
運輸・保安職	12	66	78	11	33	44
	15.38%	84.62%	100.00%	25.00%	75.00%	100.00%
その他	13	37	50	3	5	8
	26.00%	74.00%	100.00%	37.50%	62.50%	100.00%
農林	1	14	15	14	40	54
	6.67%	93.33%	100.00%	25.93%	74.07%	100.00%
合計	479	1692	2171	413	1100	1513
	22.06%	77.94%	100.00%	27.30%	72.70%	100.00%

多変量解析

手法

二項ロジスティック回帰分析

従属変数 いじめの被害経験（ダミー変数）

独立変数 15歳時の
親学歴・親職業，暮らし向き，
本の所有数，家庭の雰囲気，成績

統制変数 性別，
年齢，兄弟姉妹数，
シングルペアレント（ダミー変数）

結果

表4 いじめ被害経験に関する規定要因(パネル)

	男性			女性		
	B	S.E.	O.R.	B	S.E.	O.R.
切片	0.14	1.05	1.15	-0.42	0.81	0.66
年齢	0.03	0.03	1.03	0.04	0.02	1.04
15歳時の暮らし向き	-0.09	0.13	0.91	-0.10	0.10	0.91
15歳時の本の冊数	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00
15歳時の家庭の雰囲気	-0.48 ***	0.11	0.62	-0.27 **	0.09	0.77
15歳時の成績	-0.07	0.08	0.93	-0.12 †	0.07	0.89
兄弟姉妹数	0.13	0.12	1.14	0.03	0.10	1.03
親 大学卒・大学院卒 (ref. 中卒・高卒)	-0.60 *	0.26	0.55	-0.20	0.20	0.82
親 専門卒・短大卒・高専卒 (ref. 中卒・高卒)	-0.28	0.30	0.76	0.08	0.22	1.08
親 専門職・管理職 (ref. マニュアル職)	-0.42	0.28	0.66	0.05	0.22	1.05
親 事務職・販売職 (ref. マニュアル職)	-0.64 *	0.25	0.53	-0.04	0.20	0.96
片親ダミー	0.12	0.46	1.13	0.00	0.40	1.00
Nagelkerke R squared	0.07			0.03		
N	761			824		

*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, † $p < 0.1$

結果

男性

- ・ 親大学卒・大学院卒で有意な負の効果
→ 親中卒・高卒よりも大学卒・大学院卒の方がいじめられにくい
- ・ 親事務職・販売職で有意な負の効果
→ 親マニュアル職よりも事務職・販売職の方がいじめられにくい

女性

- ・ 出身階層については有意な効果が確認されなかった

結果

表5 いじめ被害経験に関する規定要因(リフレッシュ)

	男性			女性		
	B	S.E.	O.R.	B	S.E.	O.R.
切片	1.00	1.03	2.71	2.12 *	0.88	8.34
年齢	-0.04	0.03	0.96	-0.03	0.03	0.97
15歳時の暮らし向き	-0.09	0.13	0.92	-0.20 †	0.11	0.82
15歳時の本の冊数	0.00 *	0.01	1.00	0.00	0.00	1.00
15歳時の家庭の雰囲気	-0.21 †	0.12	0.81	-0.28 **	0.09	0.76
15歳時の成績	-0.17 *	0.08	0.85	-0.10	0.07	0.90
兄弟姉妹数	0.06	0.11	1.06	-0.05	0.11	0.95
親 大学卒・大学院卒 (ref. 中卒・高卒)	-0.22	0.26	0.80	-0.31	0.22	0.73
親 専門卒・短大卒・高専卒 (ref. 中卒・高卒)	0.01	0.28	1.01	-0.46 †	0.25	0.63
親 専門職・管理職 (ref. マニュアル職)	0.02	0.29	1.02	-0.03	0.25	0.97
親 事務職・販売職 (ref. マニュアル職)	0.05	0.26	1.05	-0.14	0.23	0.87
片親ダミー	0.03	0.38	1.03	-0.75 *	0.34	0.47
Nagelkerke R squared	0.05			0.06		
N	536			644		

** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, † $p < 0.1$

結果

男性

- 15歳の本の冊数で有意な正の効果
→本の所有数が多いほどいじめられやすい
- 15歳時の成績で有意な負の効果
→成績が良いほどいじめられにくい

女性

- 15歳時の暮らし向きで有意な負の効果
→暮らし向きが良いほどいじめられにくい
- 片親ダミーで有意な負の効果
→片親であれば、そうでない家庭よりもいじめられにくい

考察

- いじめ被害経験率はここ10年で上昇
→認知件数の増加とも符合的
- 学校におけるいじめと出身階層には一貫した
関連は見いだせなかった
—2時点において、効果がある変数は存在する
—ただし、親学歴の高低や親職業との明確な
関連はなかった
- 他方で、一貫して家庭の雰囲気が良いほど
いじめられにくく、家庭の雰囲気が子どもの
学校での振る舞いに影響を与えている可能性

今後の課題

- データ内の変数の再検討
 - 15歳時の習慣や家庭の育児環境など
(朝食摂取習慣, 歯磨き習慣)
- 多重代入法による欠損値補完
 - 男性では100近く, 女性では300近く落ちてしまっている
 - 親職業・親学歴ではできるだけNAにならないように変数を作成したが, それ以外でも多少の無回答が存在する

付記

本研究は、日本学術振興会(JSPS)科学研究費補助金・特別推進研究(25000001, 18H05204), 基盤研究(S)(18103003, 22223005), 特別研究員奨励費(20J10278), および東北大学人工知能エレクトロニクス卓越大学院プログラムの助成を受けたものです。東京大学社会科学研究所(東大社研)パネル調査の実施にあたっては、社会科学研究所研究資金, 株式会社アウトソーシングからの奨学寄付金を受けました。パネル調査データの使用にあたっては東大社研パネル運営委員会の許可を受けました。記して感謝申し上げます。

参考文献

- 池田岳人, 2020, 「JLPS-Y2007とJLPS-R2019を用いた男女差の2時点間比較」『東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ』123: 1–44, (2020年9月4日取得, https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/panel/dp/PanelDP123_Ikeda.pdf) .
- Ishida, H. & S. Miwa, 2012, “School Discipline and Academic Achievement,” R. Arum and M. Velez eds., *Improving Learning Environments: School Discipline and Student Achievement in Comparative Perspective*, Stanford University Press, 163–95.
- 文部科学省, 2019, 「平成30年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」, (2020年7月10日取得, <https://www.mext.go.jp/content/1410392.pdf>) .
- 中村高康, 2018, 「学校における『いじめ』体験と社会階層」中村高康・平沢和司・荒牧章平・中澤渉編『教育と社会階層——ESSM調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会.
- 仲修平・三輪哲, 2020, 「東大社研パネル調査リフレッシュサンプルの基礎分析」『東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ』118: 1–11, (2020年7月10日取得, https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/panel/dp/PanelDP118_NakaMiwa.pdf)
- 須藤康介, 2014, 「いじめと学力——TIMSS2011 中学生データの計量分析から」『江戸川学園大学紀要』24: 121–9.
- Tippett, N., & Wolke, D., 2014, “Socioeconomic status and bullying: A meta-analysis,” *American Journal of Public Health*, 104(6): 48–59.